手賀沼流域7市巡回~野鳥写真展~ 一瞬の出会いを切り取る『素晴らしい野鳥の世界』

主催:手賀沼流域フォーラム実行委員会・我孫子野鳥を守る会

後援:公益財団法人 山階鳥類研究所

開催趣旨

◆我孫子野鳥を守る会創立 50 周年記念事業

豊かな生態系を育む手賀沼の野鳥たちを「我孫子野鳥を守る会」会員が撮影した選りすぐの写真をラインアップします。手賀沼の野鳥の魅力、探鳥の楽しさ、野鳥と共存できる環境保全の大切さを手賀沼流域7市の会場でご覧になってください。

会期(2022年)	開催流域市	会場
5/25(水)-6/7 (火)	印西市会場①	印西市文化ホール ロビー 展示スペース
5/25(水)-6/7 (火)	印西市会場②	印西市立中央駅前地域交流館2号館 展示コーナー
6/21(火)-6/27(月)	鎌ケ谷市	きらり鎌ケ谷市民会館・きらりホール ロビー展示スペース
7/1 (金)-7/11(月)	我孫子市会場①	我孫子市生涯学習センター アビスタ 展示スペース
7/1 (金)-7/20(水)	我孫子市会場②	手賀沼親水広場 水の館 1 階 & 3 階
7/15(金)-7/25(月)	柏市	道の駅しょうなん つばさ(既存棟)
8/1 (月)-8/16(火)	白井市	しろい市民まちづくりサポートセンター 多目的スペース
8/23(火)-8/28(日)	松戸市	松戸市文化ホール 市民ホール・市民ギャラリー1
8/31(水)-9/6 (火)	流山市	流山市生涯学習センター 第 1・第2ギャラリー

印西市会場 ①印西市文化ホール ロビー/印西市立中央駅前地域交流館 2号館



行政からのメッセージ / 印西市環境保全課

印西市は緑豊かな田園と新旧の街並みが織りなす調和のとれた美しいまちです。

印西市ではその自然豊かな環境を保全していくために、様々な取り組みを行っています。そのうちの一つとして、印旛沼と並んで市の大事な水源でもある手賀沼の保全を千葉県や周辺自治体と協力して取り組んでいます。

手賀沼から流れる水は手賀川を通して利根川まで流れ込むことで、印西市へ及んでいますが、手賀沼は以前から水質悪化や外来植物の繁茂など様々な問題が生じております。これらを解決するためには、皆さま一人一人が**自然環境保護に対して意識を持つことが大切**です。

今回の写真展は、手賀沼周辺の野鳥を中心として自然に生きる鳥たちのありのままの姿を見ることが出来るため、皆様の関心をより惹きつけるものです。この展示をとおして、<u>一人でも多くの方に</u>自然環境保護へ関心を持っていただければ幸いです。

鎌ケ谷市会場 きらり鎌ケ谷市民会館・きらりホール 展示スペース



行政からのメッセージ / 鎌ケ谷市環境課

この度は「手賀沼流域7市巡回 野鳥写真展」にご来場いただきありがとうございます。

鎌ケ谷市北部を流れる<u>大津川</u>は、市内に源を発し手賀沼まで繋がっております。<u>手賀沼流域の</u> 24.2%を占めており、手賀沼最大の流入河川として手賀沼の豊かな生態系の源になっています。

かつての大津川は、昭和 30 年代後半からの急激な都市化により、<u>生活排水</u>が流れ込みかなり汚れていました。この汚水が手賀沼の水質悪化の大きな要因にもなっておりましたが、市内では下水道や浄化槽の整備が進み、各家庭が調理くずや食用油を流さないように努めたことにより、<u>昭和 60 年</u>代以降、水質は改善傾向にあります。

鳥たちは自然保護において重要な存在です。小さく可愛らしい小鳥も多いため想像がつかないかもしれませんが、実は生態系の上位に位置しています。種類によって食性も多様で、昆虫食、植物食、そして肉食と、食物連鎖において重要な役割を担っています。

手賀沼には数多くの鳥たちが生息していますが、こうした多様な種が棲めるということは、生態系が安定していることを意味しています。もしも、捕食者である鳥類の数が減ってしまうと、特定の害虫が増えすぎて農作物に被害を与えるなどといった弊害が生じる可能性もありますので、<u>手賀沼の</u>鳥たちを守ることは私たちの生活の豊かさを守ることにも繋がります。

また、様々な研究で、絶滅した恐竜と現在の鳥類は多くの特徴を共有していることが分かっています。「鳥は恐竜の子孫である」という話を聞いたことがある方は多いと思います。しかし、最近では、鳥は恐竜の進化の派生物ではなく、なんと「恐竜の生き残りである」との説もあります。

恐竜は、6,600万年前の小惑星によって絶滅したとの説が有力ですが、空を飛べる一部の恐竜は生き残り、それが現在の鳥たちであるとの解釈です。そう考えると、とてもロマンがありますね。 可愛らしいだけでなく、私たちの身近な生態系を守ってくれているたくさんの鳥たちを是非ご覧

ください。

最後になりましたが 今回の展示会開催にあたり、素晴らしい写真のご提供とこの機会を与えてくださいました我孫子野鳥を守る会並びに手賀沼流域フォーラムの皆様に心より御礼申し上げ挨拶とさせていただきます。

我孫子市会場 我孫子市生涯学習センター アビスタ/手賀沼親水広場 水の館





行政からのメッセージ / 我孫子市手賀沼課

日本初の鳥の博物館を有し、公益財団法人山階鳥類研究所の所在地である我孫子市は、令和4年度から<u>「未来につなぐ心やすらぐ水辺のまち我・孫・子」</u>をスローガンとした第四次総合計画を新たにスタートさせ、SDGs (持続可能な開発目標)の視点も盛り込んだまちづくりを進めていきます。

本市では平成13年に「我孫子市環境基本計画」を策定し、環境への負荷低減、手賀沼の浄化や自然環境の再生に取り組んできました。また、同年から、「人と鳥の共存をめざして」をテーマとした ジャパンバードフェスティバルを毎年開催し、日本最大級を誇るまでになりました。<u>鳥との共存、ひいては自然環境を考えるきっかけに</u>していただけるよう、今後も継続して開催してまいります。

手賀沼は、昭和49年から平成12年までの27年間、日本一汚濁した湖沼という不名誉な記録が続きました。その間、市民の皆さまをはじめ、国や県、流域市が連携して様々な水質保全・浄化対策を実施してきた結果、今では、手賀沼沿いの遊歩道を利用する方々や手賀沼を利用したイベントが年々増えるほどに水質が改善されてきました。我孫子市生涯学習センターアビスタのある手賀沼公園、そして手賀沼親水広場水の館は、手賀沼に集う人々の重要な交流拠点となっています。

クリーン手賀沼推進協議会の手賀沼船上学習や清掃活動、環境レンジャーのネイチャーインや環境学習では、我孫子の豊かな自然環境に楽しくふれることができます。毎年5月に開催される Enjoy 手賀沼!は、「ALL 手賀沼」をモットーに、多くの方々に水辺での賑わいを提供しています。

しかしながら、環境省の令和2年度の水質測定では年平均 COD 値が1リットル当たり10ミリグラムで、全国ワースト2位という結果でした。また、近年では、特定外来生物に指定されているナガエツルノゲイトウ、オオバナミズキンバイが沼内で急速に繁殖し、水質・生態系等への影響が懸念されています。

かつてのような豊かな手賀沼の復活を目指し、また、我孫子の美しい自然環境を未来の子ども達に伝えていけるよう、これからも市民の皆様、流域の関係団体、行政機関等と連携しながら取り組みを進めていくとともに、<u>手賀沼を活かした多彩な事業や水環境保全のための啓発活動を展開</u>していきたいと考えています。

柏市会場 道の駅しょうなん つばさ (既存棟)



行政からのメッセージ / 柏市環境政策課

柏市は千葉県北西部に位置し、一級河川である利根川をはじめ、利根運河、手賀沼という巨大な水 資源が存在し、その周辺には樹林地や水田などの広大な緑地が広がり、昔ながらの農業の営みと一体 となって形成された多様でまとまった自然環境を有しています。

しかしながら、東京近郊という恵まれた立地条件から開発が進み、<u>手賀沼においては、水質の悪化</u> <u>や水辺地の消失などにより、従来から生育・生息していた動植物の種類が減少するなど、本市の大</u> 切な自然環境が減退してきています。

手賀沼をはじめ、河川や樹林などの自然環境は、私たちに水や食べもの、きれいな空気といった自然の恵みはもとより、心身をリフレッシュさせてくれる効果ももたらしてくれています。

こうした<u>自然の恵みは、過去の世代から現在の世代に引き継がれてきたように、将来の世代に継承されるべきもの</u>であり、それを受け継いでいくためには、私たちが生きていく上で大切なこの自然環境を、一人ひとりが環境保全の意識を持ち、市民・事業者・行政が力を合わせて守っていくことが必要です。本展示会を通じ、<u>手賀沼の魅力や価値を再発見いただくとともに、水辺や緑などの自然環境を守ることの大切さや、環境に配慮した暮らし方について考えるきっかけとなれば幸いです。</u>

私たちの子や孫、未来のために、私たちにできることは何か、一緒に考えてみませんか。

白井市会場 しろい市民まちづくりサポートセンター 多目的スペース



行政からのメッセージ / 白井市 笠井喜久雄 市長

手賀沼は、豊かな生態系を有し、かつては底が透き通って見えるほど澄んで泳げる沼でしたが、昭和30年代後半からの手賀沼流域での急速な都市化に伴う生活排水の流入により、急激な水質汚濁が進行し、昭和49(1974)年度から平成12(2000)年度まで27年間にわたって湖沼水質汚濁ワースト1が続きました。

これまで、国による北千葉導水事業、流域市民や団体・県・流域市で組織する手賀沼水環境保全協議会による様々な浄化対策事業などが実施され、このような長年の取り組みにより平成 13 年に湖沼水質汚濁ワースト 1 を返上することができました。

しかし、<u>未だ国の定める環境基準(COD値 5ミリグラム/0以下)には達しておらず更なる</u> <u>浄化への取り組みが必要になっており、市でも環境学習、環境保全や啓発などの活動を市民団体等</u> と協力して実施しています。

今回の手賀沼流域野鳥巡回写真展は、野鳥に視点を当て我孫子野鳥を守る会の皆様が長年にわたり撮影した貴重な写真を展示し、手賀沼の水鳥の変遷から手賀沼の自然環境がどのように変わってきたかを知り、<u>市民の皆様が環境保全の大切さに気づき、主体的に身近なところから環境保全に取り組んでいただくきっかけになれば幸いです。</u>

結びに、我孫子野鳥を守る会の創立50周年をお祝い申し上げ私からのメッセージといたします。

松戸市会場 松戸市文化ホール 市民ホール・市民ギャラリー



行政からのメッセージ / 松戸市

我孫子野鳥を守る会創立50周年おめでとうございます。

手賀沼流域フォーラム実行委員会と共催で「手賀沼流域7市巡回〜野鳥写真展」を開催できること を大変光栄に存じます。

さて、<u>松戸市の一部を流域とする手賀沼は、かつて生活排水などによる深刻な水質汚濁により、いきものの多様性が失われてしまった過去があります。</u>鳥類は生態系の上位にあるため、水生生物などの多様性が失われてしまうことにより、鳥類もまた多様性が失われてしまいました。

そのような中で手賀沼流域フォーラムは手賀沼水環境保全協議会と協働し、流域の生活排水対策など手賀沼の水質改善をソフト面から推進してまいりました。その甲斐もあり手賀沼の水質は一定の回復を示し、水生生物の多くが戻ってまいりました。それとともに水生生物をえさとする野鳥もまた戻り、**手賀沼の生物の多様性は回復しつつあります。**

今後も松戸市は手賀沼流域フォーラム実行委員会の皆様とともに、これからも水環境の保全を推進してまいりますので、皆様の一層のご理解のほどよろしくお願いいたします。

最後に手賀沼の水質の回復を野鳥という観点で記録されてきた、「我孫子野鳥を守る会」の皆様の 益々のご発展を祈念して開催のご挨拶に代えさせていただきます。

流山市会場 流山市生涯学習センター 市民ギャラリー



行政からのメッセージ / 流山市環境政策課

流山市では、「生物多様性ながれやま戦略」に基づき、市内の拠点における生態系モニタリング調査の実施、植樹活動の推進により、自然保護の保全および回復に取り組んでいます。

また、2018年3月19日に、オオタカを市の鳥に制定しました。環境省のレッドリストで「準絶滅危惧」に指定される希少な鳥で、市内の地名や学校名、駅名などにも名称が使用されています。 近年、人的活動や地球温暖化の影響から絶滅危惧種に指定されている生物が増加しており、生物多様性の保全が喫緊の課題となっています。 生物多様性を保全することは、私たちの未来を保全することにつながります。そのために日々の生活から私たちが何をできるのか、ぜひ一緒に考えてみましょう。